

令和4年度

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター

業務実績評価書

令和5年9月

鳥 取 県

I 全体評価

全体評価に当たっては、項目別評価を踏まえつつ、法人の中期計画の進行状況全体について、次の5段階で評価する。また評価の視点について記述するものとする。

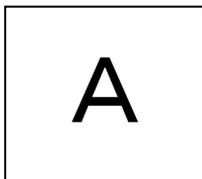
- S 年次計画を大幅に上回って業務が進捗しており、かつ特筆すべき業績を挙げている。
- A 年次計画を上回って業務が進捗している。
- B 概ね年次計画どおりに業務が進捗している。
- C 年次計画に対して業務の進捗がやや遅れている。
- D 年次計画に対して業務の進捗が大幅に遅れている。

全体評価

(令和4年度業務実績評価)

総合評価

5段階評価



≪ 評価基準 ≫

- S 計画を大幅に上回って業務が進捗しており、かつ特筆すべき業績を挙げている。
- A 計画を上回って業務が進捗している。
- B 概ね計画どおりに業務が進捗している。
- C 計画に対して業務の進捗がやや遅れている。
- D 計画に対して業務の進捗が大幅に遅れている。

評価理由

1. 総評

第4期中期目標期間の最終年度である令和4年度は、前年度以上に全国的に新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、地方独立行政法人鳥取県産業技術センター（以下「センター」という。）においても困難な状況での運営を余儀なくされたが、ウェブ会議システム等を活用しながら企業訪問や技術相談、人材育成事業など幅広いセンター活動を精力的に実施した。

特に、センター活動の基本である企業訪問及び技術相談件数は前年度比で増加しており、センターの活動のすそ野拡大へ向けた努力によるものと評価する。

また、企業訪問や技術相談を通じた企業の課題抽出によって、新たに共同研究へとつながった件数が第4期中期目標期間中で最多となった。県内産業の状況に対応したセンター独自のテーマ設定による研究に取り組んだ結果、センターの活動成果の中核的指標である技術移転において、引き続き計画を上回る成果が出ており、県内企業の課題解決や新事業創出に貢献した。

さらに、令和元年に整備した「とっとりロボットハブ」を活用した「AI・IoT・ロボット技術分野」の支援、次世代自動車分野、高付加価値食品分野などの重点分野においても新事業創出の支援が着実に進んでおり、センターのサービスが県内企業に有効活用されている。

以上、企業の課題解決に向けた技術支援や研究開発、技術移転など、センター活動の指針としたすべての項目において第4期中期目標達成に向けた取組が計画を上回って進捗したと認められることから、「A」評価とする。

2. 個別評価

(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

令和4年度は、前年度以上に全国的に新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、センターにおいても職員の在宅勤務や分散勤務など職場内や対外的なコミュニケーションが困難な状況での運営を余儀なくされたが、ウェブ会議システム等も活用しながら精力的に企業訪問や技術相談への対応を推進した。

企業訪問件数（R3年度：746件→R4年度：832件）、技術相談件数（R3年度：5,223件→R4年度：5,797件）ともに前年比で増加しており、センター利用企業の満足度も99.7%と非常に高くなっていることを評価する。今後も、機器利用、依頼試験等を含めて、県内企業のホームドクターとしてのセンター活動のすそ野拡大に期待したい。

また、企業訪問や技術相談を通じて企業から課題抽出した結果から発展した企業等と

の共同研究が10件、県内産業の状況に対応したセンター独自のテーマによる研究とあわせて37件の研究テーマに取り組み、さらに、独自技術開発件数（K P I：12件→R4年度実績16件）や、県内企業への技術移転件数（K P I：15件→R4年度実績：17件）でも計画を上回る結果が出ている。

また、令和元年度（第4期初年度）に整備した「とっとりロボットハブ」を拠点とした人材育成事業では、技術移転や共同研究に進展するなど、センターの要素技術や研究開発の成果が県内企業に普及・活用される機会として有効に機能するなど計画を上回って進捗している（K P I：参加企業数：200社、参加者数：400名、育成者数：65名→R4年度実績：参加企業数：355社、参加者数518名、育成者数：166名）。人材育成においては、客観的指標による検証を加えながら、引き続き、センター活動の柱として展開していくことを期待する。

（2）業務運営の改善及び効率化に関する事項

令和4年度は、第5期中期目標期間を見据え、企画・連携推進部、各研究所を統括し、重要事項の総括・業務推進などを行う研究統括本部長の職を新設し、第5期中期計画担当参事を配置するなどセンター運営体制の充実強化を進めるとともに、発酵生産部門を電子・有機素材研究所（鳥取市）から食品開発研究所（境港市）に移管し、食品関連企業への支援を一体的に進める体制を整備した。

理事長のリーダーシップの下、センター活動の進捗を適切に点検しながら、運営の効率化・スピードアップを図っていることを評価する。

また、職員の意欲向上と能力発揮においては、外部機関や鳥取県庁への研修派遣など職位に応じた能力向上に努めており、この結果、外部機関から6名の職員が表彰を受けるなどの成果が出ている。令和4年度から職員の能力発揮、人材育成を効果的かつ計画的に進めるための「人材育成基本方針」、「研究職職員人事評価要領」及び「昇任の考え方（基準）」を本格的に運用開始し、センターの総合力を生かすことができるコーディネート人材・プロデュース型人材の育成に注力している。

（3）財務内容の改善に関する事項

業務の効率的な運営によって確保した余剰金の有効活用により、老朽化した施設・機器整備を実施している。また、地方独立行政法人会計に対応した会計システム、機器利用・依頼試験の事務処理と会計処理を一元処理する独自システムを運用するなど業務運営の効率化を進め、予算の効率的運用等について創意工夫しながら積極的に取り組んできたことを評価する。

今後も、耐用年数を経過した機器については順次更新していく必要があるが、各機器における費用対効果を検証するなど、その実施にあたっては、効果的かつ計画的な運用が行われるようお願いしたい。

（4）その他業務運営に関する重要事項、その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

内部統制に関しては、センターの内部統制を統括する内部統制推進本部による定期的な取組評価の実施や、「研究費不正使用防止」、「業務遂行におけるリスクマネジメントの推進」など適宜テーマ設定を行いながら取組を着実に推進するとともに、法令等順守の徹底、効率的な業務執行の確保を図っている。

また、各研究所の照明のLED化推進など節電の取組を徹底することで電力使用量は地独化後最少（ピーク時比44%減）、コピー用紙使用量も地独化後最少（ピーク時比41%減）となるなど、環境負荷低減の成果が出ている。

人事配置においては、引き続き、専門性が高く、企業ニーズの多様な技術課題に柔軟に対応できる人材を確保するため、一層の努力をお願いしたい。

Ⅱ 項目別評価

項目別評価に当たっては、法人から提出された業務実績報告書及び法人からのヒアリングを基にした検証を踏まえ、中期計画の達成に向けた法人の事業進捗状況・成果を年次計画の項目ごとに、次の5段階で評価する。

- S 年次計画を大幅に上回って業務が進捗しており、かつ特筆すべき業績を挙げている。
- A 年次計画を上回って業務が進捗している。
- B 概ね年次計画どおりに業務が進捗している。
- C 年次計画に対して業務の進捗がやや遅れている。
- D 年次計画に対して業務の進捗が大幅に遅れている。

令和4年度 項目別評価

大項目	中項目	小項目	評価単位	自己評価	委員会評価	評価に関するコメントなど
I 中期目標の期間 【平成31年4月1日～令和5年3月31日(4年間)】						
II 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項					A	
1 県内企業等の製造技術・品質向上、新技術開発への技術支援						
		(1) 技術的課題解決のための技術相談	1	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への対応が一層困難になる中であって、ウェブ会議システムを活用し、積極的に企業訪問、技術相談への対応を行い、創意工夫しながら結果を出してきたことを高く評価する。 ・利用企業の満足度も99.7%と非常に高い水準であり、県内企業に対して継続的に良質なサービスを提供している。 ・機器利用件数、依頼試験件数などセンターの利用企業の裾野を広げるツールと捉え、県内企業のホームドクターとして、センターの利用拡大への取組が進むことに期待したい。 ・人材育成事業が県内企業ニーズに即して見直され、高い評価を得ている。 ・新事業や、新分野進出のために開発支援した製品が、受賞するなどの成果が出ており評価ができる。
		(2) 製品の品質安定化・性能評価、新技術開発のための機器利用、依頼試験・分析	2	A	A	
		(3) 新事業の創出、新分野進出のための支援	3	A	A	
		(4) 生産性向上のためのAI・IoT・ロボット等先端技術の実装支援	4	A	A	
		(5) グローバル需要獲得のための支援	5	B	B	
2 鳥取県の経済・産業の発展に資する研究開発						
		(1) 企業の収益力向上を目指す実用研究(短期的視点での研究)	6	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実用研究、基盤研究ともに充実している。これらを、今後の外部資金獲得や、大学等各種機関との連携につなげていってもらいたい。 ・研究テーマ設定にあたっては、今後の社会の変革による社会課題への挑戦など、それらを考慮し、検討するための新たな手法を取り入れ、意欲的な姿勢でのぞむことを期待したい。
		(2) 未来の経済・産業発展に貢献する基盤的研究(中長期的視点での研究)				
		(3) 知的財産権の積極的な取得と成果の普及				
3 鳥取県で活躍する産業人材の育成			8	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オーダーメイド型人材育成は、県内企業に定着し、大きな成果を上げてきている。 ・人材育成の効果については、客観的指標によって測ることができる手法などを検討していくことも必要であり、今後も、工夫を重ねながら取組みを拡大していくことを期待する。
4 県内外機関との連携支援体制の構築			9	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国立研究開発法人産業技術総合研究所との共同研究の進展や、外部資金獲得に向けた外部専門家を交えての検討会等を主導的に行っていることを評価する。
5 積極的な情報発信			10	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディア(SNS)やWebサイトから効率よく情報発信を行っている。親しみやすく、センター活動の透明性を確保し、また県内企業等との新たな機会創出につながっている点を評価する。

大項目	中項目	小項目	評価単位	自己評価	委員会評価	評価に関するコメントなど
Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する事項					A	
	1	機動性の高い業務運営	11	A	A	・理事長の下、第5期中期目標期間を視野に、組織体制の整備等が着実に進んでいることを評価する。
	2	職員の意欲向上と能力開発	12	A	A	・新型コロナ感染拡大への対応を求められた中、企業支援サービスを低下させることなく、組織が一丸となって取組んだことは高く評価できる。
Ⅳ 財務内容の改善に関する事項					A	
	1	予算の効率的運用	13	A	A	・老朽化した機器の更新について、余剰金を活用しながら、更新を進めていることを評価する。
	2	自己収入の確保	14	A	A	・機器更新等においては、予算の効率的運用の観点からも、費用対効果を慎重に検討しながら進めていただきたい。
	3	提供するサービス向上に向けた剰余金の有効活用(剰余金の使途)				
Ⅴ その他業務運営に関する重要事項					A	
	1	内部統制システムの構築と適切な運用	15	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守・不正防止などの取組を着実に推進しているところを評価する。 ・情報セキュリティにおいては、社会環境が急激に変化する中で、生成AIやクラウドサービスの活用をどうするのかなど、ガイドライン策定も含めて対応が求められる。
	(1)	法人運営における内部統制の強化				
	(2)	法令遵守及び社会貢献				
	(3)	情報セキュリティ管理と情報公開の徹底				
	(4)	労働安全衛生管理の徹底				
	2	環境負荷の低減と環境保全の促進	16	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・使用電力の削減、ペーパーレス化において、最大時に比べて4割以上の削減ができているなど着実に成果を出している。
	3	災害等緊急事態への対応				
Ⅵ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項					B	
	1	施設及び設備に関する計画				<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な人材育成と管理職登用を進めていくことや、人材採用における応募者確保のための取組など、引き続き、創意工夫しながら取り組んでいただきたい。
	2	出資、譲渡その他の方法により、県から取得した財産を譲渡し、又は担保に供しようとする計画				
	3	人事に関する計画	17	B	B	

